

令和7年度鹿児島県大学図書館協議会講演会記録

日 時：令和7年12月9日（火）13：10～14：45

会 場：鹿児島女子短期大学附属図書館

方 式：ハイブリッド [対面・オンライン] 開催

参 加：34名（うち鹿児島女子短期大学生10名）

演 題：椋鳩十生誕120周年記念講演

「椋鳩十 今を生きる私たちへのメッセージ」

講 師：久保田 里花 氏

（椋鳩十研究者、文筆家、「ハトの日」実行委員顧問）

（1）開会

令和7年度鹿児島県大学図書館協議会の代表館である鹿児島女子短期大学図書館長代理の鹿児島女子短期大学長 村若 修 氏より開会の挨拶が行われた。

（2）講演

1. [ハイジ] との出会い
2. 『山窩調』について
3. 「大造じいさんとガン」、今はどう読まれているか
4. 鹿児島県立図書館長 久保田彦穂
5. ～自然破壊、社会問題への視線～
6. ～戦争児童文学の傑作～『マヤの一生』

（3）概要

はじめに、祖父である椋鳩十との関係や椋鳩十生誕の地である長野県喬木村の様子について紹介された。

新美南吉、宮沢賢治と並び教科書に長年にわたり継続して児童文学作家として掲載されていることに触れ、動物を通して命の大切さや自然との共生、生きることの美しさを伝えていることが説明された。

鹿児島県立図書館長時代の巡回文庫や「母と子の20分間読書運動」等を推進し、現在の図書館の運営に多大な影響を与え、鹿児島の図書館の在り方、読書運動の礎となっていることを踏まえ、久保田里花氏もこどもが読み聞かせを行う活動を推進している。

本講演は、現在の情報過多、早い流れの中で生きる私たちにとって、原点に立ち返ることの大事さを椋鳩十作品から継承していく必要性を再考させられる講演だった。